

## 果物の見切り品

福岡県北九州市立鞘ヶ谷小学校 五年 竹野 理恵子

私は、夏休みの自由研究で「食品ロス」について調べた。果物や野菜を育てる農家、それらを売るスーパー、それらを買う私達の工夫や課題点など。食品ロスを自由研究にしたのは、果物も関係している。

私は、夏休みは食品ロスなど気にしていなかった。ある日、母とスーパーに行った。私は果物が好きなので、買ってもらうつもりで果物売り場に入った。どの果物も見目がよく美味しそうだった。すると、「見切り品果物」という文字が私の目に入った。気になり見に行くと、そこには形が不ぞろいで、傷があるみかんが格安で売られていた。母は、

「安いし、これにしよう。」

と言いカゴに入れた。私は、まずそうでいやだと不満に思った。その「見切り品果物」というかんばんには、「よこれや傷は多少ありますが、問題なく美味しいです。」と書かれてあった。家に帰り、買った果物を食べた。びっくりした。見た目に反して、美味しかった。びっくりする私を見た母は、

「見た目は悪いけど食べられるでしょ。でもそれが捨てられるんだ。」

といった。その言葉が私の心に残り、自由研究は食品ロスにすることを決め、なぜ食品ロスが出るか、私達は何ができるかを調べた。そして、果物が多い食品ロスは、果物の皮をむくとき、余けいな実もむいてしまう「過剰除去」、見た目の悪さが理由で出荷できず捨てられることが多いことを知った。そしてその事と家庭や外で出る食品ロスを絵、文でまとめた。

これからも私は、学んだ事を生かし食品ロス削減に取り組んでいくし、見切り果物を食べていく。みんなも見切り果物を食べてほしい。私は農家さんが汗を流し、色んな思いで一生涯懸命つくった果物を捨てないでほしい、残さないでほしいと願っている。